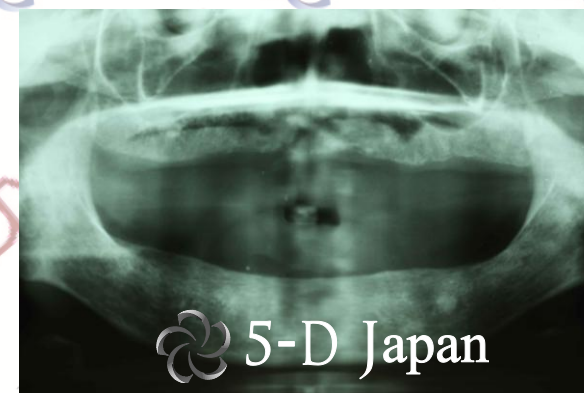


カテゴリー:インプラント

Key word:インプラント,ロケーター・アバットメント,無歯顎

下顎無歯顎にインプラントとロケーター・アバットメントを用いた症例

5-D Japan:長谷川嘉平・船登彰芳  
なぎさ歯科クリニック



初診日:平成20年8月 性別:女性 64歳

主訴:下の入れ歯が気持ち悪くて使えない

治療終了日:平成21年8月

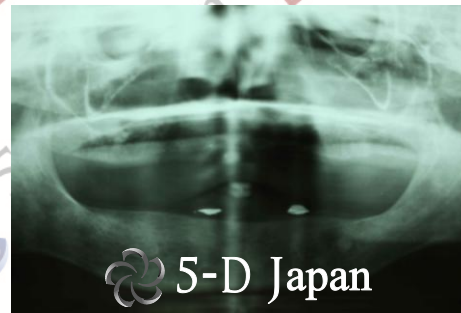
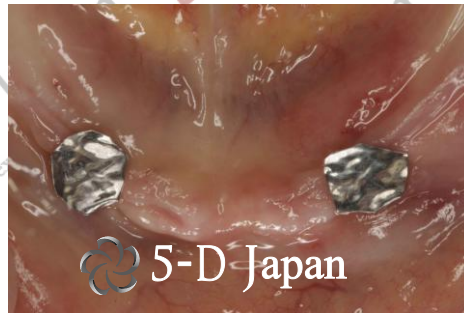
診断: 義歯不安定による義歯使用障害

治療方針:  $\overline{3|3}$ 部にインプラント埋入しオーバーデンチャーを作製

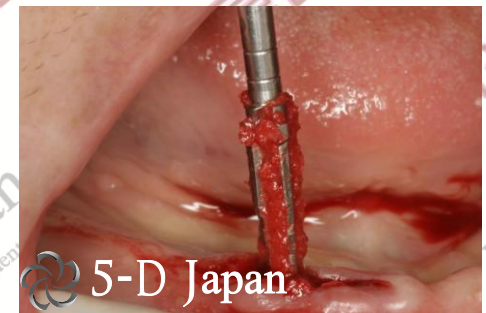
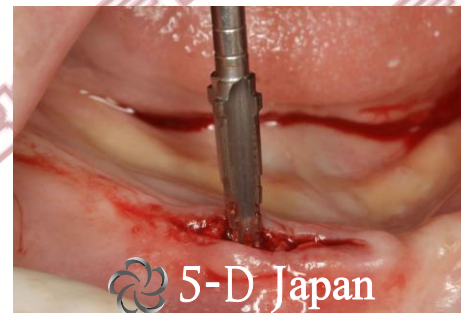
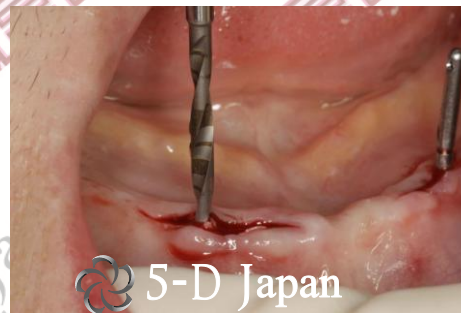
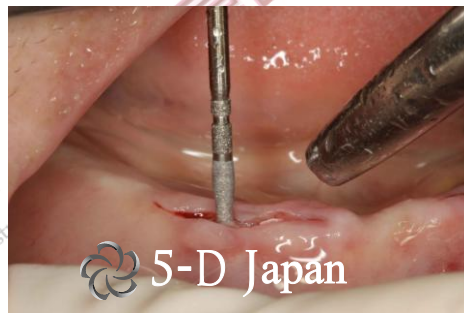
患者は下顎義歯に強い違和感があり、自分で義歯をヤスリで削っていた。そのため義歯床は適切な形態より小さくなっており口腔内で不安定な状態であった。上顎義歯には違和感はなく、下顎義歯の不安定が原因と診断し、まず  $\overline{3|3}$ 部にインプラントを適用してトリートメントデンチャーで義歯の安定を図り、経過をみて必要であればさらに左右側臼歯部にインプラントを追加する治療方針を立てた。



## 治療概要



インプラント埋入予定位置に鉛箔を置いてオルソパントモ撮影を行った。高さ・幅ともに十分な量の骨があったため、術後 1 ヶ月義歯をしないことを患者に了解してもらい 1 回法で埋入を行なうことにした。

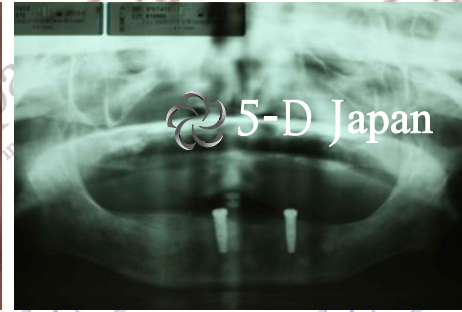
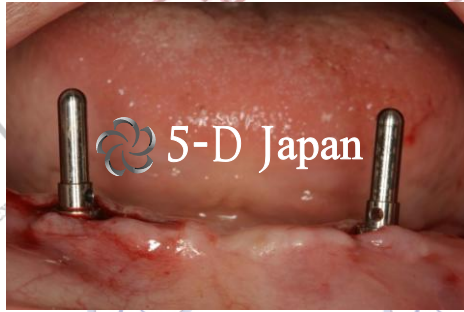


埋入はフラップレスで行った。歯槽頂部を切開し、まず 2710 バーを用いて、次いでツイストドリル、クワッドドリルの順に方向にホール形成を行った。インプラント埋入の方向が悪いと補綴処置が困難になるため、形成したホールにインディケーターを挿入し、極力平行性に保ちながらホール形成を行った。

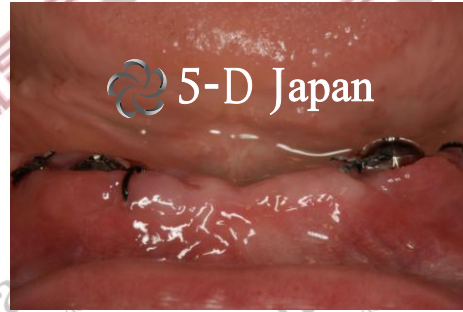
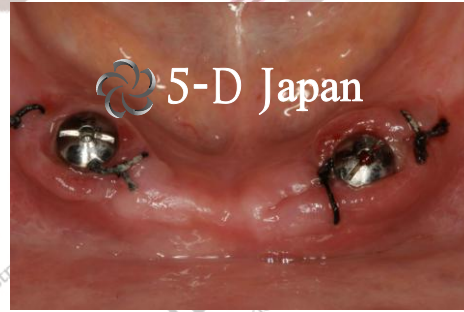
骨質が硬かったためボーンタップでホールを最終形成した後に、Certain プレースメントドライバーチップを用いてインプラント(IFNT413)を埋入した。



下顎無歯顎にインプラントとロケーター・アバットメントを用いた症例



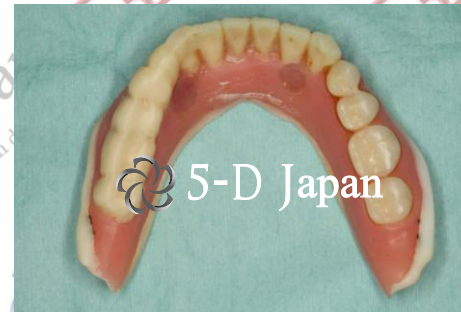
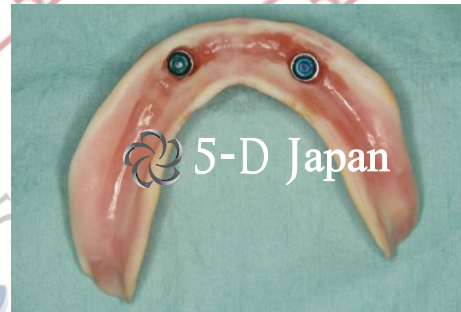
埋入したインプラントにCertain ディレクションインディケーターを装着し、埋入方向を確認した後、縫合後歯肉を貫通する最小限の長さのヒーリングアバットメント (ITHA52) を選択し装着した。



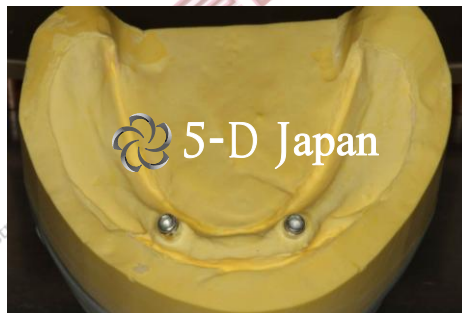
術後9日 治癒は良好である。術後 1ヶ月から旧義歯内面に松風ティッシュコンディショナーを裏層して使用してもらった。



下顎無歯顎にインプラントとロケーター・アバットメントを用いた症例



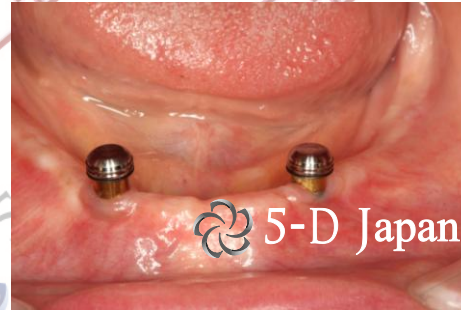
術後 4 ヶ月にヒーリングアバットメントを適切な高さのロケーターアバットメント (LOA002) に交換。あらかじめトリートメントデンチャーを作製しておき、義歯内面にロケーターアバットメントの Replacement Housing を装着した。トリートメントデンチャーの調整を重ね、ティッシュコンディショナーによる床形態の決定、咬合の確定を行ない、患者の満足が得られたため最終義歯の作成のステップに進んだ。



トリートメントデンチャーで動的印象を行ない、作業模型を作製、同時に咬合器への付着し通法に従い最終義歯を作成した。インプラント部の義歯床内面は Replacement Housing を口腔内で取り付けられるようにスペースを確保しておいた。また維持装置部分には応力が集中するため破折のリスクが高いためメタルフレームで堅牢になるようデザインした。



下顎無歯顎にインプラントとロケーター・アバットメントを用いた症例



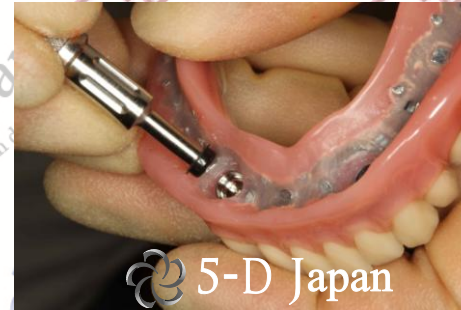
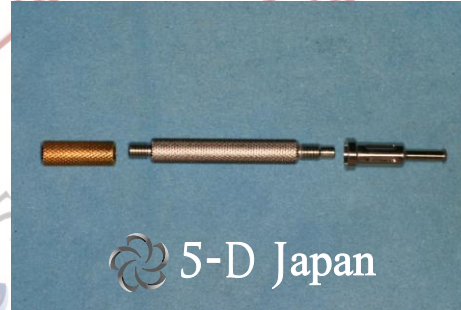
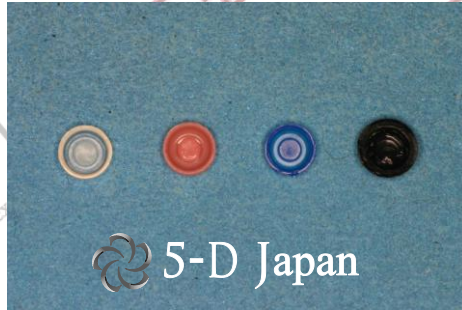
黒の Processing Male 付の Housing を  $\overline{3|3}$ ロケーターアバットメントに装着、即時重合レジンがアンダーカットに入り込むのを防ぐための White Spacer Ring を襟巻のように取り付けました。



義歯床内面に設けておいたスペースに即時重合レジンを盛り口腔内に圧接、レジンが完全に硬化した後に義歯を取り外し、形態修正した。この際に義歯外面に流出孔を設けておき、余剰なレジンが粘膜面に流れないで外部に流出するようにした。



下顎無歯顎にインプラントとロケーター・アバットメントを用いた症例



義歯に取り付けた Housing 内には、樹脂製の Retention Male を装着する。Retention Male には、色によって維持力の強さが違う数種が用意されている。専用のツールを使って Housing を義歯に取り付ける際に用いる黒の Male を取り外し、青の Extra Light Male を装着した。



## 最終補綴物装着時もしくは、動的治療終了時



義歯完成。経過は良好である。

### まとめ:

本症例では 2 本のインプラント・1 回の外科処置という最小限の治療で患者さんの満足を得ることができた。身体的負担や経済的な理由から多くの本数のインプラントを適用できない症例においても、オーバーデンチャーを用いることによりインプラントのメリットを最大限に活用できることを示した例だと思う。ただし、シンプルな治療ではあるがシンプルゆえに各ステップで必ず留意しておかなければならないポイントもあると考えている。まず極力平行にインプラントを埋入すること。平行性が悪いとロケーターアバットメントの維持力が適切に発揮されないことを経験している。またインプラントを用いると義歯が安定するので、それに伴って機能も変化すると思われる。そのためトリートメントデンチャーを用いて床形態、咬合を確定していくステップも重要だと考えている。

なお、ロケーターアバットメントは現在国内では販売されていないが、個人輸入で入手することができる。個人輸入の方法に関しては3i 営業マンに問い合わせれば懇切丁寧にアドバイスしてもらえる。